

Centorスクリーン網戸/シェードシステム お手入れ・メンテナンスガイド

Centorスクリーン網戸/シェードシステムのメンテナンスを適切に行うことによって、ご購入された製品を長期にわたってスムーズに使用し続けることができるようになります。

操作

網戸やシェードを使用しないときは、完全に巻き入れて格納してください。そうすることで、製品の損傷を防ぎ、きれいな状態を保つことができます。

Centorのスクリーン網戸/シェードシステム（S2、S2ミニ、S4、およびS4コーナー）は、ある程度の風には耐えられるように設計されていますが、風が強い場合は網戸を巻き入れて安全に保管してください。すでに風が強くなっている状況では、網戸のメッシュに折り目がつかないように巻き入れることが難しいことがあります。このような状況では、網戸を格納する前にドアを閉じると、メッシュにかかる圧力が軽減されます。

Centorの垂直スクリーン網戸/シェードシステム（EW、S5、S6）の網戸やシェードを上げる際は、コードの真正面に立って、コードの巻取り機構と摩擦が発生しないようにしてください。決して必要以上に強い力をコードに加えないでください。網戸とシェードの上部と下部には、あらかじめ停止位置が設定されています。もしこれらのポイントを無理に超えた場合は、チェーンクラッチに深刻な損傷が生じる可能性があり、その場合は交換が必要となります。

シェードの生地は、ドアや窓を閉めた状態でのみご使用ください。この生地の織目は密度が高いため、突風にさらされると船の帆のような働きをして、システムの機構に深刻な損傷を与える可能性があります。

クリーニング

一般的な場所よりも厳しい環境で使用する場合、建物の所有者がその場所に適したお手入れのレベルを判断してください。Centorでは以下の基本的なメンテナンスを推奨しています。

屋内用の生地（準遮熱タイプ、遮熱タイプ、遮光タイプ）

生地に付着した汚れやシミをできるだけ早く取り除いてください。合成繊維の布を使用すると生地の中で静電気が発生し、汚れがより強く付着する可能性があるため、綿素材の布を使用することをお勧めします。

乾いたシミを取り除くには、柔らかいブラシまたは布が最も適しています。水を使用するとシミがさらに資材の中に広がる可能性があります。



湿ったシミは、柔らかい乾いた布で取り除くことができます。外側から内側に向かってシミを軽くたたきます。次に、数滴の中性洗剤を入れた水で湿らせた布で軽くたたきます。必要に応じて、布のきれいな部分でこれを繰り返します。生地が乾いてからシェードを巻き入れてください。

メッシュやシェード生地の上、またはその近くに窓ガラスクリーナーを吹きかけないでください。

屋外用の生地（網戸メッシュおよび日除けシェード）

ポリエステル/PVCの網戸メッシュやファイバーグラス/PVCのシェードは、必要に応じて柔らかいブラシや布で汚れを落とすことができます。

よりしっかりと汚れを落とす必要がある場合は、数滴の中性洗剤を入れた水で湿らせた布で網戸またはシェードを優しく拭いてください。

または、柔らかいブラシのヘッドを付けた掃除機を使用してください。

フレーム

Centorスクリーン網戸/シェードシステムは、粉体塗装または陽極酸化処理された押し出しアルミニウムで作られており、数滴の中性洗剤を入れた水で湿らせた布を使用しきれいにすることができます。

天然木材を使用した材料を含む納型スクリーン網戸/シェードシステムは、木の表面に水あとが残るのを防ぐために、乾いた布または軽く湿らせた布で拭き取ってください。

下枠のレール

網戸の下枠レールにはゴミ屑が溜まることがあり、取り除かなければ網戸の動きに影響することがあります。ゴミ屑が多い地域（例：海岸近く）でご使用の場合は、定期的に取り除いてください。

S1スクリーン網戸では、ノズルを付けた掃除機で溝を清掃するのが最適な方法です。下枠の端まで掃除するには、網戸の枠をわき柱から少し引き出し、ノズルを網戸のメッシュ/ファブリックと下枠の間に慎重に挿入します。

S2システムでは、下枠カバーを取り外すことができますので、掃除機を使用して簡単に溝をきれいにすることができます。カバーの端でフレームを傷つけないように注意しながら、カバーの内側にある縁をつかんで傾けながら取り外します。ゴミを吸い取った後、カバーを元に戻します。

S2と同様に、S4およびS4コーナーシステムにも取り外し可能な下枠カバーがあります。カバーの端でフレームを傷つけないように注意しながら、カバーの内側にある縁をつかんで取り外します。掃除機でゴミを吸い取った後、カバーを元に戻します。

故障の修理

スクリーン網戸/シェードシステムのシステム機構の修理は、お客様が実施することはできません。操作に関してご不明な点がございましたら、Centor（電話+81 90 7210 3726）までお問い合わせください。

下枠レールの清掃を超えて、故障の自己診断を試みることは推奨されません。これにより、保証が無効になることがあります。